

## 指定管理者評価シート

### 一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市芦の口児童館
2	指定管理者	特定非営利活動法人みやぎ・せんだい子どもの丘
3	指定期間	平成29年4月1日から令和4年3月31日まで
4	施設の利用状況	《利用者数》 22,289人 (前年度比 102.9%) 平成29年度 21,660人 平成28年度 19,630人 平成27年度 19,321人
		《事業》 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5	収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 29,581千円 (29,512千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)  《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)
		( )は前年度決算額
6	利用者の声	《実施状況》 利用者アンケート、児童館運営委員会、児童クラブ保護者懇談会を実施。

### 二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	23/23
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、毎月1回発行している児童クラブだよりの「むくどり」で子どもの生活や遊びの様子を伝えるとともに、迎えの際の保護者との挨拶や会話を大事にしており、保護者が子育て等について相談しやすい雰囲気づくりを心がけている。また、保護者会と協力して「茶話会」や「親子レクリエーション」等の行事を行い、保護者が活動に参加しやすい機会を設けている。学校との連携もよく図られており、日常的・定期的に情報を共有している。	18/18

### 三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加点要素)

評価すべき取組み	評価すべき理由
<b>加点評価</b>	—

### 四 評価総括

《指定管理者（ 特定非営利活動法人みやぎ・せんだい子どもの丘 ）による自己評価》
<p>●地域とのつながり 開館から7年、地域の子供達を見守る場所として定着している。子育て支援クラブ「あしっこ」は、地域の民生委員、子育てを終えた会員や乳幼児の子育て真最中の若い会員まで年齢層が幅広く、昨年度からは男性会員2名を加え、和気あいあいと活動している。恒例行事の共催事業「流しそめん」は竹伐りから始まり、あしっこの男性会員や児童クラブの父親が活躍、節抜き作業では、あしっこに加え児童クラブの保護者とこどもスタッフが力を合わせた。また、当館を拠点に毎月1回練習を行っている親子サークル和太鼓「天地芦鼓連」とすずめ踊り「おだづもっこ」に依頼し、「和太鼓」「すずめ踊り」のワークショップを開催。地域の親子が楽しく参加した。</p> <p>●子育て家庭支援 育児相談「ことり〜む」は保健師による相談室で、乳幼児の心の発育に必要なことは十分に愛された実感と遊びこむ事だと、子育てに孤軍奮闘している母親達を励ましてきた。また、児童館の利用から子育ての仲間ができるようにと始めた月に1回の「ほっとサロン」は、地域の若い母親達に好評で、毎回楽しみに参加して下さる方も多い。</p> <p>●子どもの育ちの場として 児童クラブの子どもに加え、自由来館の利用も多く、一輪車に乗ることを楽しみに児童館に遊びに来る。野球やサッカーなどを、限られた空間で時間を決めるなど子ども同士で工夫して行ったり、異年齢で遊ぶ姿から、児童館・児童クラブは子どもたちにとって「育ちあい」の場であると感じた。また、一人になる空間の確保が難しい児童館にあって、事務室をトラブル時のクールダウン等の場所とするともに、創作活動室をゆっくり静かに過ごす場所として活用。集団で育ちあう良さを活かしつつ、一人ひとりに丁寧に向き合うことを心がけ、『人にやさしくみんなが笑顔』になれる児童館運営を続けていきたい。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>職員が手作りおやつを提供する「ほっとサロン」は、参加者同士の交流の場として定着しているほか、専門家による子育て相談の場「ことり〜む」も定期的に開催している。また、乳幼児親子対象の「幼児クラブ」や「おはなし会」等、子育て支援クラブと共催する行事も多く、子育て家庭を支援する体制が整えられている。</p> <p>子育て支援クラブや児童クラブの保護者、子どもスタッフ等が竹伐り、節抜きの事前準備を行って実施する「流しそめん」は、地域の恒例行事となっており、世代を超えて地域住民が交流する場となっている。また、学校休業日や土曜日には、小学生以上を対象とした多様な行事を行っており、小学生以外にも中高生、一般の方も参加する活動となっている。平成30年度は、児童館を活動の拠点としている和太鼓やすずめ踊りグループによるワークショップを新たに開催し、和太鼓やすずめ踊りを体験する機会を設けている。様々な機会を捉えて地域住民が児童館に集まり、児童館が地域交流の拠点としての役割を果たしており評価できる。</p>	S

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進室